

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 3月8日放送分 「小さな苗から 大きな実りへ」～愛媛発！農業ビジネス最前線～

### 3月8日放送分 「小さな苗から 大きな実りへ」～愛媛発！農業ビジネス最前線～

3月8日(TX・TVO)

9日(TVA・TVH・TVQ・RCC)

10日(BSJ)

苗の出荷で日本一を誇る愛媛県の(有)山口園芸(資本金1,500万円、従業員225名)は、キュウリ、トマト、ピーマンなど果菜類を中心に年間1,600万本の苗を出荷している。苗を24時間見守るきめ細かな品質管理などを通じ市場を開拓。苗の貯蔵を大学と共同開発する他、機械化をにらみ生産工程の数値化に取り組む同社の挑戦を紹介する。

#### 「小さな苗から 大きな実りへ」 ～愛媛発！農業ビジネス最前線～

[視聴覚教材No. TV14-49](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



愛媛県津島町へやってきた志垣さん。その手には新鮮な野菜が沢山。今日はこの野菜の「苗」を生産している会社を訪問。

こちらが苗の出荷量日本一の(有)山口園芸の山口社長。



全国の農家の7割が自分たちで苗を作っ



ている中、(有)山口園芸は年間1,600万本の苗を出荷しており、国内シェアトップ。

良い苗を作る技術開発のために社員全員が頑張っていると山口社長は語る。また、消費者である農家の労働の軽減を考え、「アーストレート苗」を開発。これはポットではなく紙で養土を包むことで、直接土中に植えられようになっている。



POINT: 良い苗を作る技術を開発し、育苗技能を高める

POINT: 農家の労働力を軽減するアイデア



一見普通のオフィスに見えるが、実はここが「接ぎ木」課。

接ぎ木作業中。この作業には熟練した技術が必要とされるため、ここにいる全員が正社員として働いている。

POINT: 正社員として雇用を守り熟練した技術者を育てる





元・農協職員の音地さん(右から二人目)。最初はまともな苗が少なく、厳しく注文をつけたという。山口社長はそれに発奮。品質の向上を迫った。昔から(有)山口園芸の苗を購入している谷口さん(右から三人目)は、今は1150本の苗の中で1本も悪いのがなく農家は安心できると語った。



山口社長は技術革新を迫るため研究開発を中心に行う子会社ベルグアースを設立。



苗の長期保存実験中。野菜苗は一定の時期に需要が集中してしまうが、長期保存ができれば安定した生産を行うことができる。現在12日間の保存が可能だが、目標は1ヶ月間の保存。

POINT: 苗の「安定生産」を可能にする長期保存の研究を行う

POINT: 「安定生産」のシステムによって人件費などの低コスト化をめざす



コンピューターシステムのコンサルタント、近藤さん。苗の管理に半導体を導入した農業のIT化に協力。農業の基本は人間にあることは忘れない。しかし、「新しい時代には新しいやり方が生まれる。」と山口社長は語る。



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN